

# BEN STYLE

## 「最後の聖域、大井川 上流に行ってきました」

大井川上流の未開拓地である大井川上流。大井川鐵道・南アルプスあぶらライン・奥大井湖上駅・寸又峡温泉・夢のつり橋・桃源郷井川と魅力満点です。いの一歩に大井川鐵道のS.L.の予約です。3日前にWEBをチエツクすると、11時52分のS.L.に余裕あり。ヘーじやあ行つちやうか。WEBで申し込むと翌日メールで予約番号をもらえます。予約は確実になさつてくださいな。当日券はほとんどありません。次は行程であります。連休とGOTOキャンペーンで、旅館はほとんど空いていない。全線を日帰りで行き可能だが、行きが3時間、帰りが3時間、乗ればなしになる。乗り鉄ではないか呑み鉄ではない



のそれでもさみしい。やつと一軒、井川でひなびた旅館が予約できました。これで泊まる所が確保できた。次の問題はどこに車を置くか？この問題に半日悩む。やはり前日に中間駅の千頭に置き車することに決定。その後電車です島田のビジネスホテルへ。ここからは色々取れますよ。翌日S.L.出発の新金谷駅に向かう。おつと車が500台は押しかけている。S.L.予約者は優先策はあるが、車を停めるのに苦勞しそうです。機関車トマスが子供さんに大人気。この月前は1から満席前がすらい人乗れな目見よう。浴見り。人が大



ちやんもアラザロコでお弁当を物色していざS.L.へ。あつれつれ違つたが引つ張るやつは古い電車？。そうなんです。トマス号以外のS.L.はハイシーズンしか走らないです。5月の連休とが紅葉シーズンだけしか走りません。S.L.も老朽化しているのて休ませてるみたいですね。時刻表をよく見るとE.L.急行がわね号と書いてある。E.L.+客車だそうだよ。勘違い勘違い。思い込みによるこのパターンは多いだろ。うね。まあ乗つたら前は見ないし、トンネルで煙も来ないのてまあいいつが。昭和10年製客車のレトロ感ハ半端じゃないので、ワクワクです。観光列車なので車掌さんが色々解説してくださる。さあ窓を開けて白ワインでお弁当をいただこう。田園風景の大井川沿を千頭に向けて走つていきます。沿線ポイントのS.L.エント

第206号  
BenHouse  
編集人 尾上大輔  
(記事はあくまでも編集人個人の私感でございまして悪しからず。)  
www.benhouse.co.jp

では観光客が手を振つてくられます。やつぱレトロな客車の魅力がなあ？前半は千頭駅まで1時間。後半は千頭駅で南アルプスあぶらラインに乗換える。赤色トロツコ列車のよるでスイスの山岳鐵道のようです。あぶらと急勾配を上る電車の方式であります。線路のギアと電車のギアを合わせ登つていく。アプトいちしる駅でアプト電車を連結する。乗客の皆さん、只今よりアプト電車を連結します。5分間停車しますのて、ご見学ください。みんな興味津々で駆けていく。あれ、線路の真ん中にギザギザがありすよ。これに引つかかつて滑り落ちないように登つていくのね。今まで



ね。今までのスウィッチバックは経験した。これは初めて



では観光客が手を振つてくられます。やつぱレトロな客車の魅力がなあ？前半は千頭駅まで1時間。後半は千頭駅で南アルプスあぶらラインに乗換える。赤色トロツコ列車のよるでスイスの山岳鐵道のようです。あぶらと急勾配を上る電車の方式であります。線路のギアと電車のギアを合わせ登つていく。アプトいちしる駅でアプト電車を連結する。乗客の皆さん、只今よりアプト電車を連結します。5分間停車しますのて、ご見学ください。みんな興味津々で駆けていく。あれ、線路の真ん中にギザギザがありすよ。これに引つかかつて滑り落ちないように登つていくのね。今までのスウィッチバックは経験した。これは初めて



3大急勾配列車を完全制覇。まあSより好き。次は奥大井湖上駅に向かう。ここで大半の乗客が下車する。電車は4駅先の井川で折り返して戻ってくるまで、カフェで40分のタイムです。残念だがビールはなかつた。景色は最高だがちよつと退屈。元気な人は鉄橋を対岸へ渡って展望台まで行っている。でもね展望台は電車が走ってこそ値打ちがあるが、電車を見てたら置いてかれる。さつき乗ってた電車の折返し最終。湖上駅に置き去りなんてシャレにならんわ。千頭駅へ戻って置き車に乗ってまた井川まで走る。道は狭いので明るいうちに走ろうね。しかし井川に着いた頃には周りは真つ暗、どこに旅館があるのか心配になる。携帯もつながらんし、困ったな。どうにかたどり着いた大西屋旅館。昔はお茶と林業で



賑わっていました。今はその影はない。産業もなくひなびた村であります。そんなひなびた井川を盛り立てようと、大西屋の女将は実家の旅館へ帰ってきた。女将はソムリエの資格を持ちイタリアでも料理の修業をした。その腕を試すべくワインとイタリアン・和食を味わえる料理旅館に変革。夕食はシイタケの陶板焼きとヤマメのパピル焼き。地元産の食材を工夫した料理をあてに、ソムリエおすすめのシャブリをハーフトルトでいただく。ソムリエの選んだシャブリさすがにいい。なんでシャブリについていか知ってる？大ちゃんも名前が知ってたが、由来は知らなかつた。フランスのシャブリ村で作られたからシャブリだそうなんです。もう一つシャルドネとはブドウの種類です。この2つを知ってたらハナタカです。翌日の朝食ではキノコご飯をいただく。食後のコーヒーはJALのフアーストクラスで出されるスペシャルテ600円を勧められる。さあ料理はいいのだ

が設備は昭和のままなんです。そんな旅館に後継ぎとしてソムリエ娘(大きな娘)が帰ってきて料理とサービスマで活路を見い出そうとする姿。大ちゃんも財布のひもが緩む。隣の部屋の人さあそいで。その連続でありました。さてスペシャルテとはソムリエがスキで挽いてくださり、紅茶の容器で湯出しして出てきた。人生初のスペシャリテ最高でした。しかしそうゆつくりもしていられない。今日は寸又峡温泉へ向かいます。美人温泉とよばれる絨境の温泉郷です。また有名なのは夢のつり橋です。10人が定員なので本日も60分の大渋滞であります。さつさと渡ればいいのに、アジアの若者連れが橋の上でポーズを決めて写真撮り続ける。行ったり戻ったりで自分たちだけで15分は粘っただろっか？待つてる人たちは心の中でプーイング。昔は親の顔が見たい。なんて言っていました。思わず「エウロク」と叫びそうになった。夢の吊り橋は絶景スポットと共に、橋の真ん中で恋



に関する願い事をすれば叶えられるといわれるパワーがあります。湖水はエメラルドブルーに輝く。「一生に一回は渡りたいつり橋」とか。全国人気10指に入るだけの事はありました。満足満足。寸又峡温泉では名物ワサビそばとみそ田楽をいただく。「温泉は？」。「美人になつても困るやん」。次は最後の目的地の千頭駅前「おざわ食堂」であります。寅さんが22作で泉ピン子とご飯食べた食堂です。バス停が千頭駅前と見えたのでずつとずつと訪れたいとあこがれていました。やつとやつと思いが叶う。実は一昨日も行ったが営業時間外でバツ。今日こそはと、昼食後の重い腹を抱えながら、かつ井食べるぞと狙った。しかし残念なこと。火曜日は定休日だつて。残念！また来いってことなのね。了解了解どうせビールも飲みめはんし。と負惜しみを言いながら、運転手は一路姫路へ急ぐのであった。



に恋する。夢の吊り橋は絶景スポットと共に、橋の真ん中で恋

また来いってことなのね。了解了解どうせビールも飲みめはんし。と負惜しみを言いながら、運転手は一路姫路へ急ぐのであった。

